

シンガポールの MICE 施設サンテックの視察 ～世界一の国際会議開催件数を誇るシンガポール～

シンガポール事務所

1 MICE 産業の振興に積極的なシンガポール

国土が狭く資源もほとんど持たないシンガポールは、観光を主要産業の一つとしてとらえ、MICE (Meeting、Incentive Travel、Convention、Exhibition/Event) 関連の誘致についても積極的に行っています。

近年の国際会議の開催地の中心はヨーロッパからアジアへ移りつつあり、イベントの誘致にあたってシンガポールは、近隣諸国であるタイやマレーシア、インドネシアとの競争に勝たなければいけません。そのため、シンガポールは IR(統合型リゾート)である「マリーナベイ・サンズ」や「リゾートワールド・セントーサ」、空港からの利便性が高い「エキスポ」、そして中心市街地周辺のオフィスとホテル街への利便性が高い「サンテック」といった性質の異なる MICE 施設を備え、競争力を高めています。

このたび、シンガポールにある主要な MICE 施設の一つである、サンテック (Suntec Singapore Convention & Exhibition Centre) を視察したので報告します。



サンテック入口の巨大なスクリーン

2 サンテックの概要

サンテックは市街地に近く、また、チャンギ空港からは車で 20 分程度です。地下鉄 (MRT) の駅に隣接しており、周辺にはリッツ・カールトンミレニアシンガポールを始めとするホテルがあります。徒歩 15 分圏内における宿泊可能な部屋数を合計すると約 5,200 に上り、また近隣はレストランやミュージアムなどが充実しています。

シンガポールで不動産投資信託などを運営する ARA アセット・マネジメントの子会社であるサンテックシンガポールが運営主体となっています。

1 階のエントランス付近には 664 ものスクリーンパネルをつなぎ合わせた縦 15m、横 60m に渡る LED の高画質大型分割テレビスクリーンがあります。1 階と 2 階は 300 以上の小売店と 100 以上の飲食施設を備えたショッピングモールのサンテック・シティが

あります。中には、世界最大の噴水として 1998 年のギネスブックに認定された「富の噴水」のような観光スポットもあります。会議等の来場者用のホールは 2 階となっています。

3 階は会議場となっており、12,000 m²に 28 の可動式の壁があります。顧客のニーズにあわせてフレキシブルに部屋の大きさを調整することが可能となっています。

4 階と 5 階は多目的展示場として使われており、こちらも最大で 12,000 m²の部屋を分割して使用できる仕組みとなっています。



展示場は可動式の壁で仕切ることが可能

また、同会には宴会場も備えています。

6 階は会議場と隣接して 10,000 m²の多目的ホールがあります。現在は宗教団体が長期契約で貸し、4 階のスペースが埋まった場合には、一時的に貸し出しを行うことが可能となっています。

サンテックは 1995 年に開業しましたが、独立採算を維持するため商業用テナントの需要の高さに注目し、2012 年 6 月から S\$1 億 8,000 万を投資、1 年間かけて大規模改修を行い、会議室や展示会場だけでなく、ショッピングセンターの刷新も行いました。

3 インテリジェントな会議室

一般的な傾向として平日は小規模なイベント用の会場の需要があり、逆に週末になると大規模な会議や展示会等を行うための会場の需要が高まります。近年ではイベントのあり方が多様化しており、国際会議と展示会を同時並行に行うといった要望もあるため、会場をフレキシブルに提供できることが求められています。そのためサンテックはインテリジェントビル管理システム (IBMS) を導入しています。このシステムによってほとんどのサービスシステムの集中的な管理が可能となっています。例えば、部屋を壁によって分割した際に、システムが自動的に分割を認識し、使用する部屋のみ照明を作動させることや、展示会や会議といった会場の使用目的によって照明の明るさを変えることが可能となっています。

更にビル内部の至る所でアクセス可能な Wi-Fi を整備しており、同時に最大 6000 までのデバイスの接続が可能となっています。

4 おわりに

サンテックはシンガポールの MICE 戦略を支える重要な施設の一つと言えます。単に顧

客に会場を提供するのではなく、顧客が必要なニーズを把握しながらそれに合わせて施設を柔軟に提供し、更にイベントが終わった後の滞在を楽しめるような工夫をしっかりと検討されていると感じました。

シンガポール国内の他の MICE 施設については、市場の拡大につながるためマーケティングの観点から重要な存在であり、ライバルでありながら同時に協力関係も築いていくことが大切であるとの説明者の言葉が印象的でした。

(宮崎所長補佐 佐賀県派遣)

